

くしまっ子

風つかみ、全国の舞台で躍動

8月に開催されたインターハイのセーリング競技FJ級で堂々3位に入った日南振徳高校の深江哲平くん（北方出身）と中村海一くん（福島出身）。全国の舞台で県勢25年ぶりの表彰台に上がりました。

2年からペアを組み始めた二人。深江くんが舵と主帆を操るスキッパーを務め、中村くんが船の傾き調整や前帆を操るクルーを担当しています。船上では、互いに意見をぶつけ合いな



抜群のチームワークを活かして全国の舞台で大活躍した2人

から切磋琢磨し、3月の全九州高校選抜や6月の全九州大会を制するなど力を付けてきました。「練習量も大事だけど、どんなレースにも対応できる経験を積み上げることが大事」と話す二人。風の力だけで水上を帆走するセーリングは、艇を操る技術だけでなく、潮の状況を読み、風を読む自然現象を予測する力、船を有利なコースへと導くための戦略、その時の変化に瞬時に対応する判断力など、さまざまな能力が要求されます。

4日間計7レースが行われたインターハイでは、3日目までの6レースで首位。しかし、最終日7レースのスタートで出遅れ、最終順位は3位。「優勝が見えていただけに最終レースは悔いが残るけど、それでも全国3位という結果には胸を張りたい」と充実感をにじませました。

高校卒業後も競技を続けるという二人。さらなる飛躍を目指します。



07. 深江 哲平くん(右)
ふかえ てつぺい
 日南振徳高校3年。北方中学校出身。10月に開催されたえひめ国体にも出場した。舵と主帆を操るスキッパー担当。

中村 海一くん(左)
なかむら かいち
 日南振徳高校3年。福島中学校出身。ヨット部のキャプテンを務める。船の傾き調整と前帆を操るクルー担当。

地域おこし協力隊

活動日記

vol.7

これまでの1年、これからの1年

にしざ まさひろ
西沢 将弘さん



串間に来てちょうど1年。気付けばあっという間の1年でした。未経験ながらも串間の観光に携わる仕事をさせていただき、新たなことにチャレンジさせてもらえることに日々感謝しています。

私は現在、串間市観光物産協会で観光

関連の仕事をしています。主な内容としては、観光キャラバンの企画、運営、三大祭りの運営や観光情報発信、観光に関する問い合わせへの対応などです。

まだ無知な部分も多々ありますが、1年が経過し、串間の年間行事を一通り自ら体感してきました。企画や準備などスタッフの大変さを知りながら、お客様の声なども聞いたりもしました。

1年を通じて感じたことは、数ある観光資源の中でもやはり「都井岬」は多くの人に愛されているということです。全国的に見ても貴重な野生馬である岬馬やその

ガイドに加え、日本灯台50選に選ばれた都井岬灯台、志布志湾を臨む絶景など、都井岬には多くの魅力があります。

今年1年間学ばせていただいたことのもとに、来年度はこの都井岬を中心に自分も企画・運営・情報発信を積極的に行っていきたいと思います。自分が初めて串間を訪れた時に感じたドキドキワクワクを忘れずに、これから来るお客様が楽しめる仕組みを作れたらと思っています。

串間の風景 写真で切り取る

身近な場所で新しい発見を

岩下さんの写真は自然風景が中心。3年前ごろからは、串間にも素晴らしい風景があるということを知ってほしいと、身近にある風景を中心に撮影しています。

近年の市美展には串間からの出品が少なく、市内の写真愛好家は減少傾向にあります。「身近な場所でも作品になるということを知つ

た7回目までに特選3回、奨励賞4回を受賞しました。

本格的に始めると、県美術展や宮日総合美術展などの県内主要美術展で入選するようになります。串間市美術展でも、無鑑査となった7回目までに特選3回、奨励賞4回を受賞しました。

食欲、読書、スポーツそして芸術の秋も本番。今年も絵画、書道、写真の3部門の多彩な作品が並び、串間市美術展が開催されます。

今年で22回目を迎える同美展の写真部門で、第7回に3度目の特選を受賞し、無鑑査となったのが福島地区・上郡元にお住まいの岩下和史さん。無鑑査入り後も毎年無鑑査出品を続けています。

写真を本格的に始めるきっかけとなったのは、約30年前に写真仲間と結成した「串間とつちやろかい(写団)」で活動を始めたことでした。グループ展を開催したり、例会でそれぞれの作品に対して、協議をしたりしながら、会員同士で切磋琢磨してきました。

串間で活躍する人を紹介します

きらめき図鑑

kirameki

てもらい、気軽に始めてもらえれば。串間の風景にこだわる理由は、市内の写真人口を増やしたいという思いにもあるのです。

「朝の景色は、朝日や朝露、霜など情緒があつてきれい」だと話す岩下さんは、毎朝5時に起きて、散歩しながら撮影ポイントを探します。作品には、上郡元の自宅から徒歩で行ける場所で撮影されたものも多数。昨年には、古希を迎えた記念に、市内で撮影した作品を中心に個展を開催しました。

市内でのお気に入りの場所は、古竹と笠祇。「写真を撮っていると同じ場所でも季節によって見え方が違うし、四季を感じることができる。それを一番感じるのが古竹と笠祇」。春は山桜、6月頃になるとヒメユリが咲き、夏は田んぼの緑と山の緑がともぎれいで、冬には野焼きがあり、四季折々の風景を感じる事ができるそうです。

カメラは常に持ち歩き、撮影したい場所があれば、納得のいくまで何度でも足を運び、何度でもシャッターを切ります。「それくらいしないと、見る人を感動させる写真は撮れませんよ」と岩下さん。信条は、「今日よりも明日、明日よりもあさつて」。常に進歩を目指す岩下さんの技術の探求はまだまだ続きます。

お気に入りの1枚①

お気に入りの1枚②

いわした かずふみ
岩下 和史さん
 (福島地区・上郡元)

写真は30年以上。尊敬する写真家は前田真三氏。NPO法人蘇鉄の会で伝統芸能を写真や映像に残す活動にも力を入れている。



お気に入りの1枚①



お気に入りの1枚②